

手数料の負担額についての検討

料金水準の検討に当たっては、以下の事項について考慮する必要があります。

- ① ごみの減量化・資源化への効果
- ② 市民の受容性
- ③ 近隣他市の料金水準
- ④ ごみ処理経費に対する負担割合

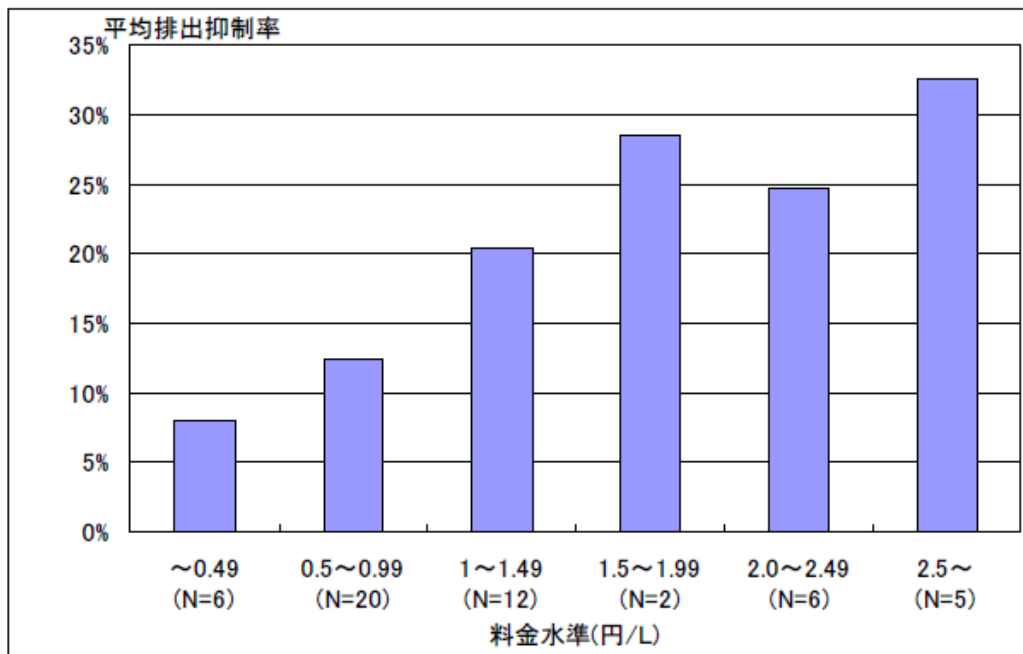
①ごみの減量・資源化への効果

家庭ごみ有料化の主な目的として、ごみの排出抑制及び分別促進による資源化を図ることであることから、ごみの削減目標の達成につながる排出抑制効果が期待できる料金水準の設定が必要となります。

料金水準が高くなるほど排出抑制効果が高くなる傾向にありますが、実際に料金水準を検討するに当たっては、市民の受容性など様々な事項を考慮する必要があります。

○家庭系可燃ごみの有料化前後の一人当たり可燃ごみ収集量変化（n＝54）

次の図はすでに有料化を実施している自治体について、可燃ごみを排出する際の手数料の料金水準と平均排出抑制率を示したものです。料金水準が高くなるほど、排出抑制効果も高くなる傾向が見られます。



(出典：環境省一般廃棄物処理有料化の手引き)

②市民の受容性

市民が負担する手数料は、市民の理解が十分に得られるように、ごみの減量や分別に積極的に取り組む世帯にとって過大な負担とならないような料金水準とする必要が

あります。

ごみの排出量（袋の使用枚数）に応じた、1世帯当たりの1か月（4.5週間）の手数料負担の想定額は以下の表のとおりです。

袋の使用枚数	料金水準（1ヶ月当りの負担額）			
	0.5円/L	1円/L	1.5円/L	2円/L
40L 週3枚 13.5枚/月	270円	540円	810円	1,080円
40L 週2枚 9枚/月	180円	360円	540円	720円
40L 週1枚 4.5枚/月	90円	180円	270円	360円
40L 4.8枚/月 (宇部市の1世帯当たり平均)	96円	192円	288円	384円

③近隣他市の料金水準

手数料の料金水準を検討するに当たっては、近隣他市の料金水準を考慮する必要があります。

近隣他市より料金が高くなりすぎると市民の理解が得られづらくなり、また、安くなりすぎると十分な減量効果が得られなくなる場合があります。

近隣他市の料金水準は以下のとおりです。

市名	指定袋金額 (1枚当たり)			1L当りの料金
	大	中	小	
下関市	30円 45L	20円 30L	12円 18L	0.67円
山口市	18円 45L	12円 30L	8円 20L	0.4円
防府市	13円 45L	12円 28L	9円 17L	0.29円～ 0.53円
岩国市	30円 45L	25円 30L	15円 20L	0.67円～ 0.83円
柳井市	30円 45L	20円 35L	10円 20L	0.5円～ 0.67円
美祢市	25円 50L	15円 30L	10円 20L	0.5円
山陽小野田市	袋代 +5円 45L	袋代 +4円 35L	袋代 +2円 15L	

⑤ごみ処理経費に対する負担割合

ごみ処理の受益に応じた負担という観点から、ごみ処理経費に対する手数料の負担割合についても考慮する必要があります。

全国的に見て家庭系ごみ処理経費に対しては、10%～30%程度の負担割合を設定しているケースが多いようです。

<平成29年度宇部市ごみ処理原価>

家庭系可燃ごみ1L(0.15kg)を処理するために要した経費 5.0円/L

上記のごみ処理原価をもとに負担割合ごとの料金水準を試算した結果が以下の表のとおりです。

負担割合ごとの料金水準 (円/L)				
10%	15%	20%	25%	30%
0.5	0.8	1.0	1.3	1.5